

# 躍進

いきいき狭山人  
ひと

狭山シニア・コミュニティ・カレッジ

## SSCCで学んだ私たちの使命 自分たちの目で見て、耳で聞いたことを 地域社会に向けて発信したい

市内に住む高齢者  
18名に焦点を当て、一  
人ひとりを丁寧<sup>ていねい</sup>に取  
材し、その方たちの  
「人となり」や元気の秘訣を綴<sup>つづ</sup>

ったジャーナルスケッチ・敬  
老特集号」。これは、狭山シニ  
ア・コミュニティ・カレッジ  
(SSCC)のジャーナル学  
科・第2期修了生20名で結成  
された狭山ジャーナル同好  
会」の皆さんが、敬老の日に向  
けて作成した情報誌です。

ます。そして、  
その冊子が22  
冊を迎えた  
とき、皆さんに  
新たな疑問が  
生まれました。  
「ジャーナル  
学科で学んだ  
自分たちの使  
命は何だろっ。自己満足のため  
の冊子作りになってはいない  
か」。そこでたどり着いたの  
が学んだ成果を地域に還元  
するための「市民皆さんに公  
開できる冊子の製作」だった  
のです。少しでも市民の役に  
立つ情報を発信する時期が来  
たと思えました。代表の田中  
忠広さんは、敬老特集号の冒  
頭でそう語っています。



増刷が必要になるほど  
好評を得ました

冊子・敬老特集号を発行

狭山ジャーナル同好会

「活動を通じて仲間ができたこと、地域のネットワークが広がったことが宝」と皆さん

生きがいづくりや仲間づくり  
などを目的として、平成12年に  
開講しました。これまでに延べ  
1千900名が卒業し、現在  
も8学科13コースで約400  
名が学んでいます。その中で  
ジャーナル学科は、取材や原  
稿執筆など、情報誌作成まで  
のノウハウを学ぶ学科です。

今回の特集号は約3か月を  
要し、全員が携<sup>たずま</sup>わりました。そ  
れぞれの世界を持ち、興味を  
最大限に引き出して製作する  
毎月の冊子と異なり、一つの  
テーマに取り組んだ、敬老特  
集号」。完成後には特別な達成

感があつたと言  
います。市内で元  
気に活躍している高齢者と出  
会い、取材をして、「シニア世  
代にはもちろん、さまざまな年  
代に元気を発信したいと思っ  
た」と田中さん。特にこれか  
ら地域へと戻ってくる団塊の  
世代に参考にしてもらえたら  
嬉しい」と語ってくれました。  
SSCCでの学び、その後の  
活動：これまで共に歩んでき  
た皆さんは、今後も、社会に向  
けた役立つ情報の発信」とい  
う同じ志を持ち、活動を続け  
るそうです。「ジャーナルスケ  
ッチ・敬老特集号」は、図書館  
などでご覧になれます。ぜひ、  
市民の目線で発信された情報  
を、キャッチしてみてください。



私の好きな景色...

## 三ツ木公園

私が好きな景色は、三ツ木公園です。夏になると息子にせがまれ、カブトムシをよく探しに行ったものです。ある時は早朝5時に、それで見つからなければ、また夜に出かけて行きました。今は時折、ウォーキングで訪れますが、夏に



松本 朗子さん  
(東三ツ木在住)

「セミの声」を聞くと、息子の笑顔を懐かしく思い出します。私にとって、物静かな安らぎと自然の豊かさを感じる場であり、思い出の場でもある公園です。



地域の皆さんの憩いの場

次回は、奥富在住の方へ

市民みなさんの声

# オピニオン

## 体育祭などの自治会・地域活動へ「きっかけ」の作り合いで最初の一步を



藤浪 宏行さん  
(広瀬東在住)

私は東京に生まれ育ち、狭山に移り住んで15年になります。毎年、9月から10月にかけては、小・中学校の運動会はもちろん、各地区の体育祭もあり、自治会を中心に体育祭へ向けた準備が活発に行われる時期です。以前は私も、体育祭の運営委員や自治会の組長をしていましたが、仕事が忙しくなったため、現在は同じように関わることができません。しかし、それらの活動を通じて感じたのは、地域活動に参加する皆さんが固定化している、ということです。これは、自治会長さんや班長さんの悩みでもあるでしょう。でも、参加者側としても声が掛からないと何となく参加しづらい...こんなとき大切なのは「きっかけの作り合い」機会を作る側と受ける側の歩み寄りだと思います。

私が地域活動に参加したきっかけは、子どもでした。スポーツを通じて、今でも続く地域とのつながりができたのです。勤務先は都内ですし、時間が自由にならないこともありますが、乗り気でなく参加してみた地域活動が、意外と楽しいことに気がきました。何かの「きっかけ」ができれば、活動に参加する方々が増えるのではないのでしょうか。例えば、当番制など半強制的でも、「地域に呼び込む仕掛けづくり」は大切です。それもきっかけの一つになると思います。

学校、自治会、公民館など、地域活動に参加できる場は身近にたくさんあります。無理のない範囲で、地域との関わりを持ってみませんか。「地域に知っている顔がある、地域とのつながりがある」...これは、住み続けることに対する安心感へつなぐと考えると考えます。

皆さんの「声」をお待ちしています。  
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎ 2954 6262(代)  
✉ koho@city.sayama.saitama.jp

芝居は、演じる側より観る側という方が多いかもしれませんが、劇団で行った体験教室で芝居の虜(とら)になって入団した仲間もいるほど、未経験者でも気軽に踏み込める世界です。その魅力は、何といても舞台で表現すること。しかしそれだけでなく、裏方や周囲の協力が成功へと導く舞台、客席と一体になれたときの感激幕が下りたときの達成感...そのどれもが、団員にとって、芝居を続ける原動力となっています。

現在は、11月4・5日の公演に向け全力投球中です。市民劇団ならではの、誰もが気軽に楽しめる、笑顔になれるような舞台を成功させるため、日々稽古に励んでいます。手作りの芝居小屋で演じる私たちの舞台を一人でも多くの皆さんに観てほしいと思います。

問合せ 能川 堅弥さんへ

2954 5588

# Hello ハロー 仲間たち

Vol.302



総勢20名、みんな芝居が大好き！新しい仲間も大歓迎です

## 市民劇団・ステップ

役者はもちろん、演出から照明や小道具などの裏方まで行う私たち、市民劇団・ステップは、市内を拠点に活動し、「地域密着」を目指して今年で11年めを迎えました。

芝居は、演じる側より観る側という方が多いかもしれませんが、せんが劇団で行った体験教室で芝居の虜(とら)になって入団した仲間もいるほど、未経験者でも気軽に踏み込める世界です。その魅力は、何といても舞台で表現すること。しかしそれだけでなく、裏方や周囲の協力が成功へと導く舞台、客席と一体になれたときの感激幕が下りたときの達成感...そのどれもが、団員にとって、芝居を続ける原動力となっています。